



令和6年度 さいたま市国民健康保険 人工透析患者状況（令和5年度分）

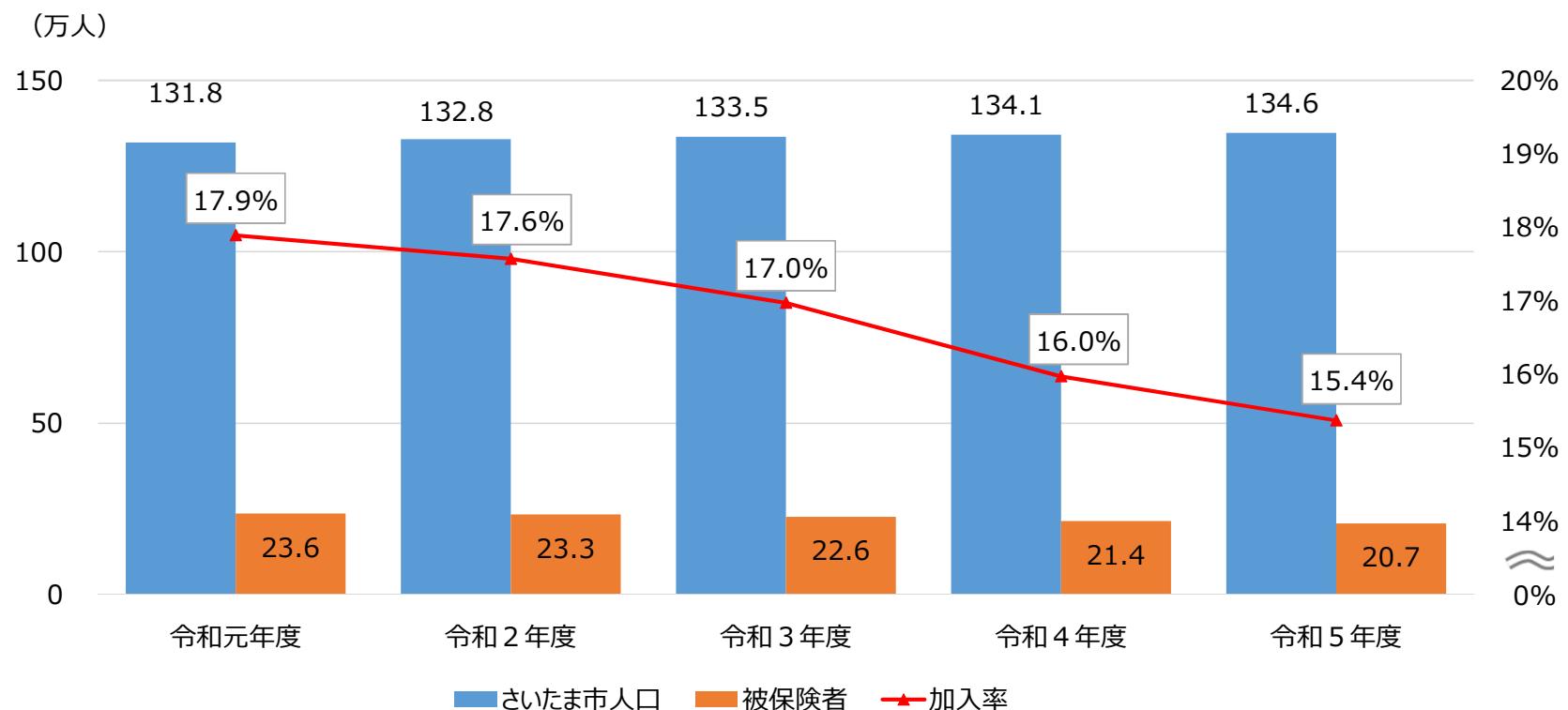


さいたま市 国保年金課

1-1. 人口・被保険者数の推移

人口・被保険者数の推移

資料：さいたま市の国民健康保険より



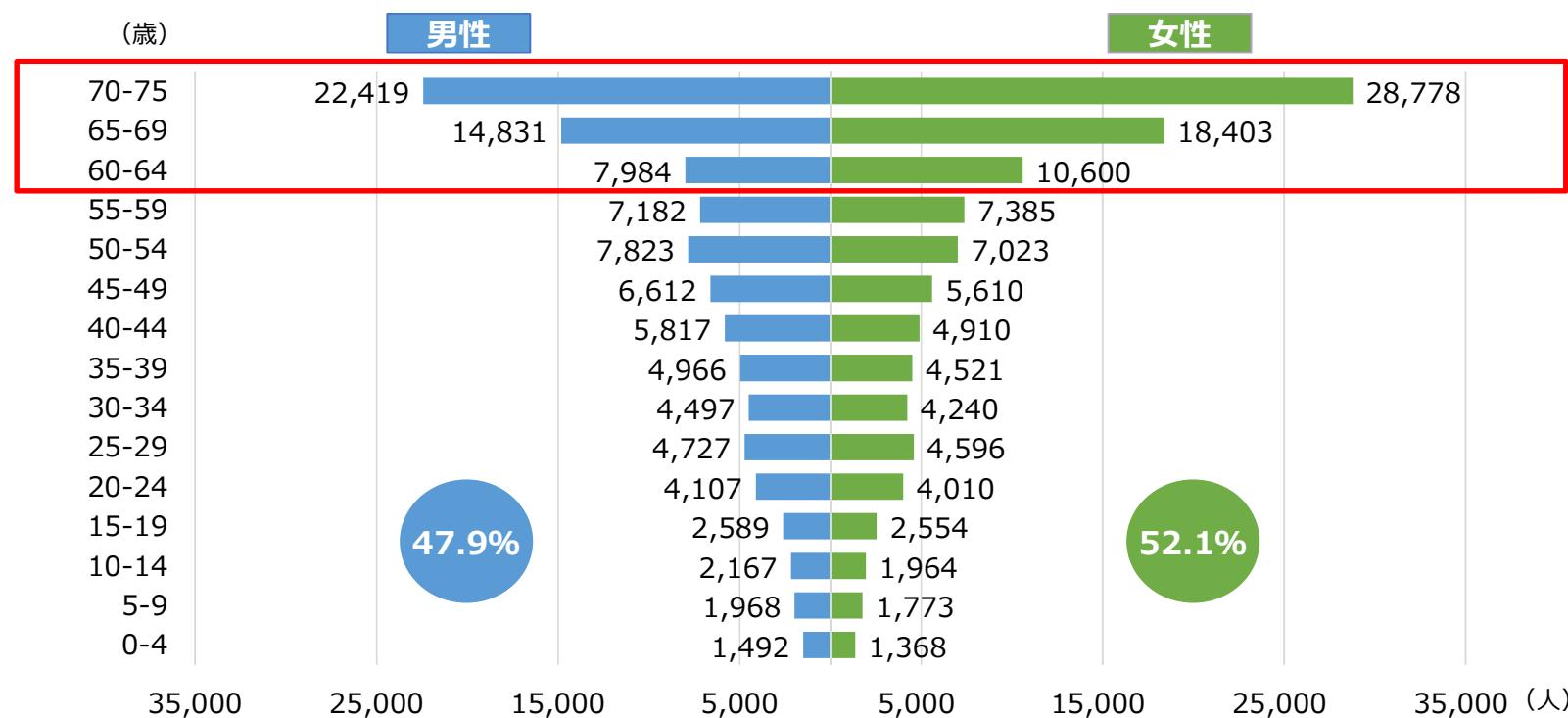
- 人口は増加しているものの、国民健康保険の被保険者数、加入率は年々減少している。



1-2. 被保険者の年齢区分別構成

被保険者人数構成（令和5年度末現在）

資料：さいたま市の国民健康保険（令和5年度末現在）より



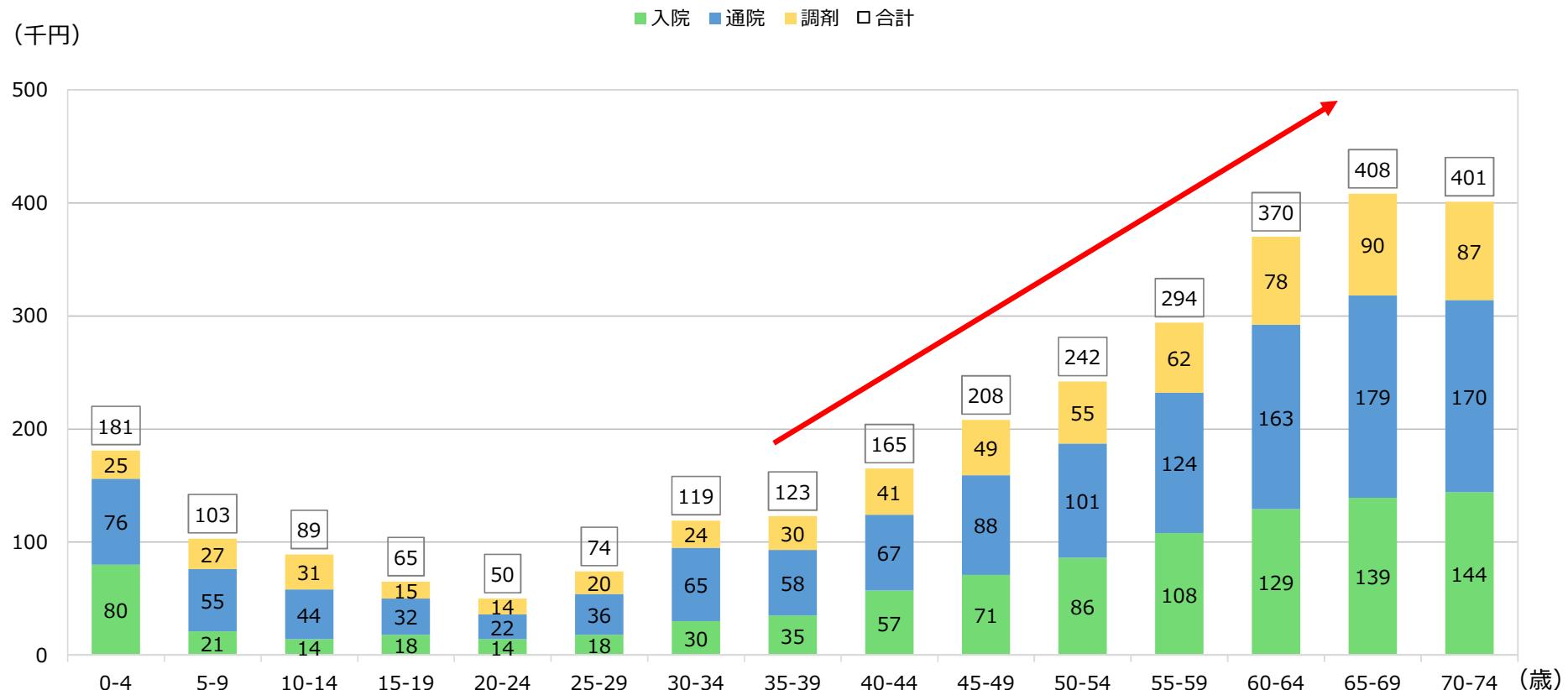
- 60歳以上で約半数（49.8%）を占めている。
- 男女比は、女性の割合が若干高い。



1-3. 医療費傾向《一人当たり医療費(年代別)》

一人当たり医療費* (年代別)

資料 : KDB疾病別医療費分析
1 保険者当たり総点数(令和5年度)より

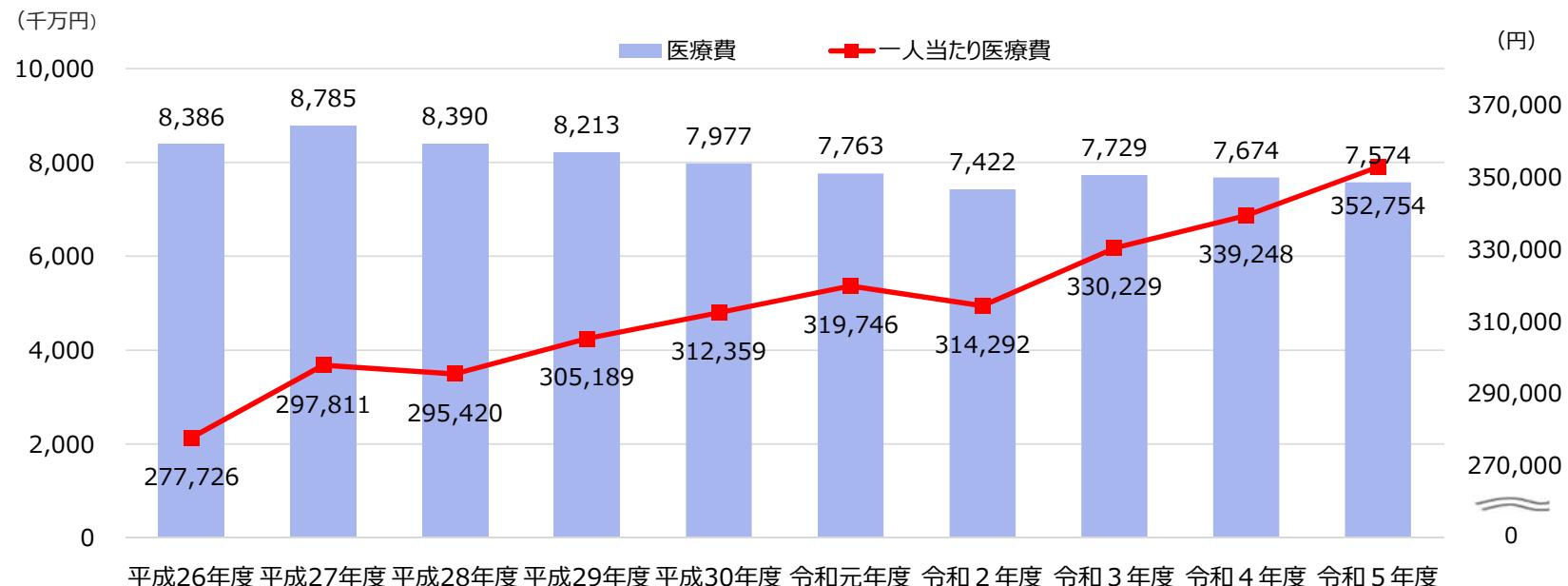


- 年齢が高くなるにつれて、一人当たり医療費は増加している。

1-4. 医療費傾向《医療費総額と一人当たり医療費》

医療費総額と一人当たり医療費*

資料：KDB（医科、歯科、調剤）より



- 医療費総額は、平成27年度の高額薬剤の影響を除き、国保被保険者数の減少に伴い減少していたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大による受診控えのため、減少した。
- 令和3年度は、令和2年度の反動で増加に転じ、令和4年度以降は減少している。
- 一人当たり医療費は経年で増加していたが、受診控えで減少した令和2年度の反動で令和3年度以降は増加している。

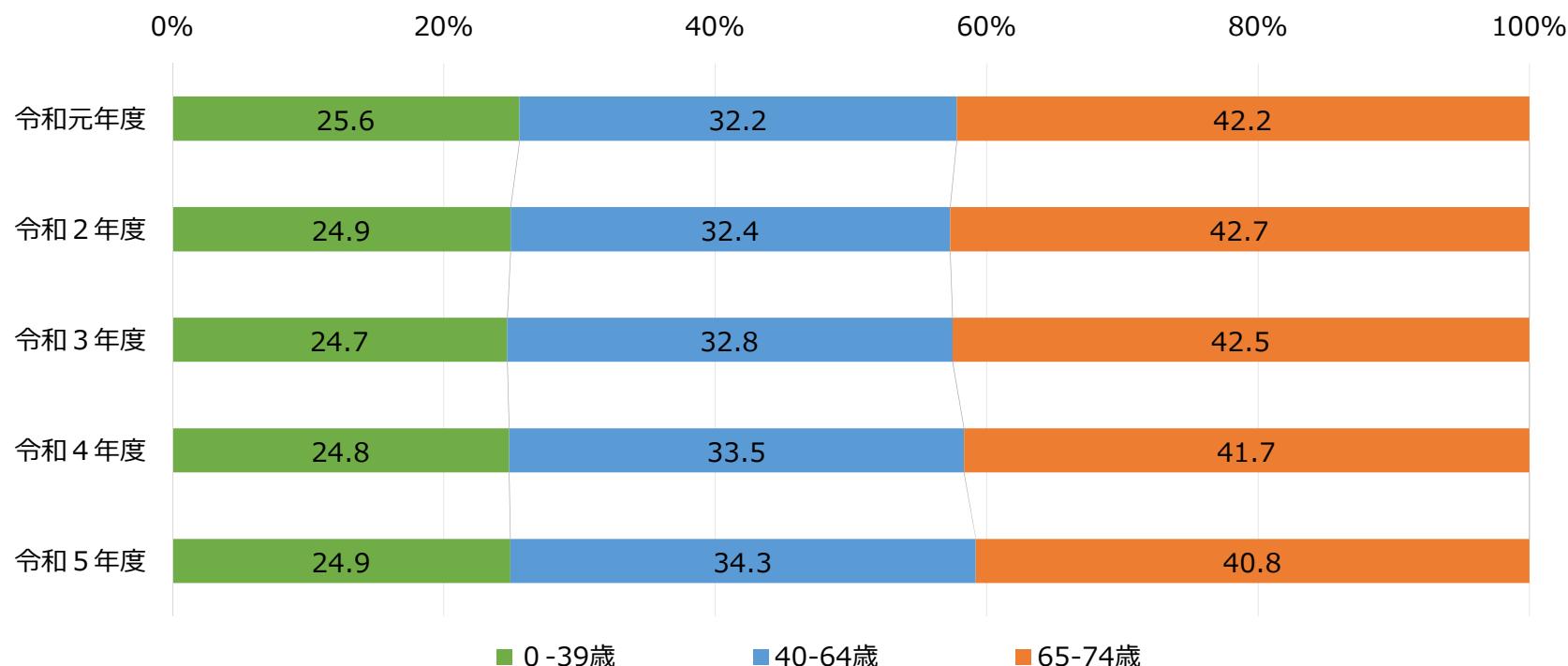
* : 一人当たり医療費は、年間医療費総額を年間平均被保険者数で除して算出した。



1-5. 被保険者の年齢構成比の推移

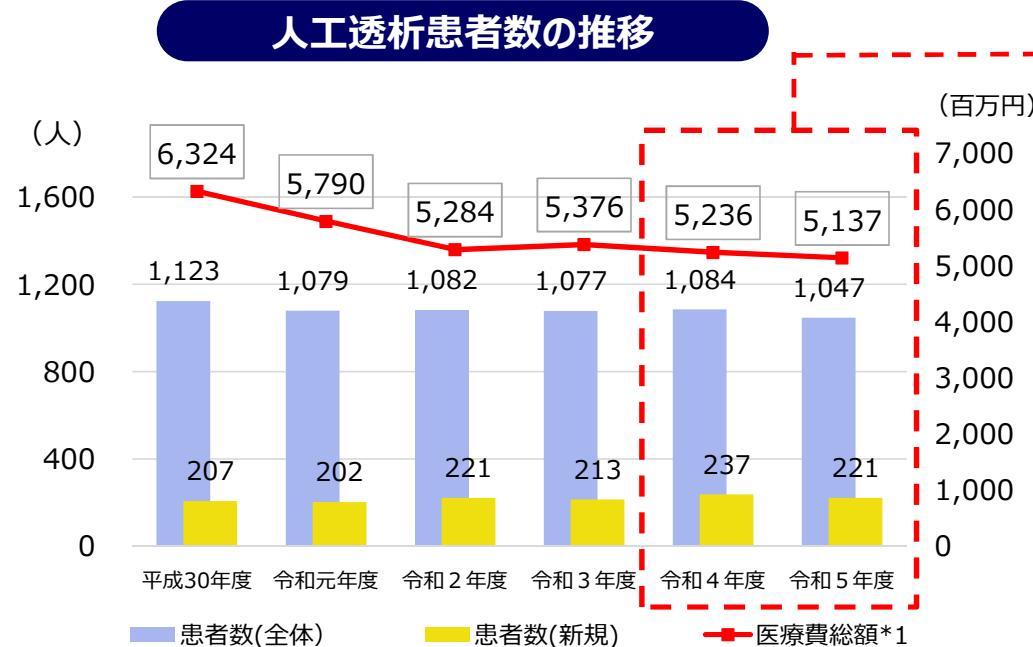
被保険者の年齢構成比

資料：さいたま市の国民健康保険より

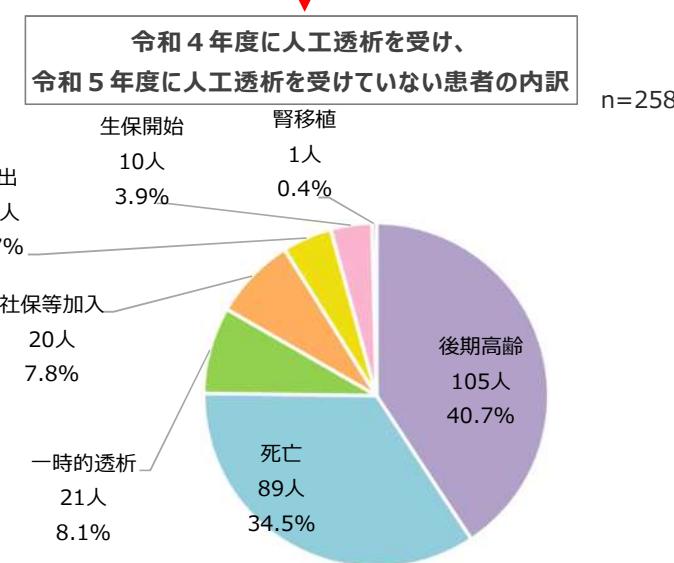


- 令和2年度までは0~39歳は減少傾向、40~74歳は増加傾向であったが、令和3年度以降は大きな変化はなく、団塊の世代が後期高齢者医療制度への移行が始まった令和4年度は65~74歳がやや減少している。

2-1. 人工透析患者の状況



資料：KDB・レセプトデータより



- 令和5年度の人工透析を行っている患者数は1,047人、医療費総額は年間約51億4千万円となっている。患者1人当たり医療費*2は年間約570万円だった。
- 人工透析患者のうち、新規患者は平成30年度から令和元年度は約18%、令和2年度以降は約20%で推移しており、令和5年度では21.1%となっている。
- 令和4年度に人工透析を受けて、令和5年度に人工透析を受けていない患者258人の内訳は、後期高齢者医療制度への移行が40.7%、死亡が34.5%、一時的透析が8.1%と続いている。

*1：医療費総額には、医科レセプト、調剤レセプトを含む

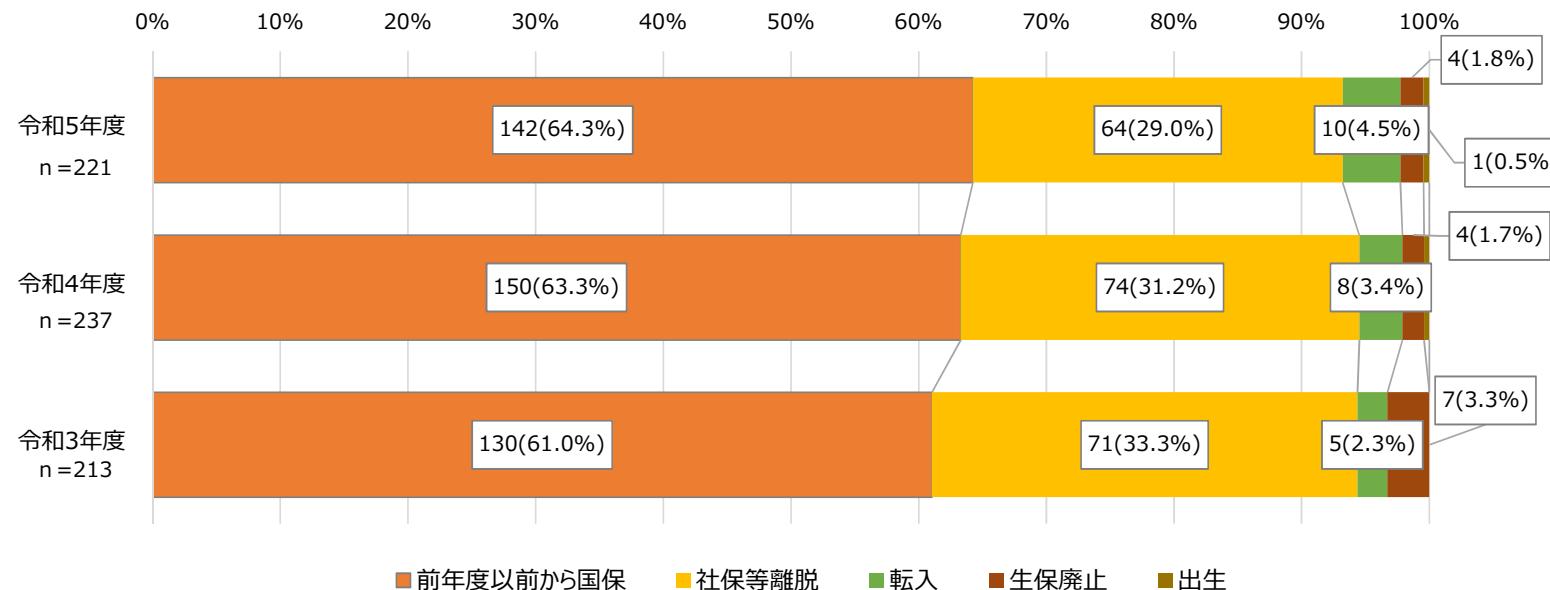
*2：患者1人当たり医療費は、年間を通じて透析をしている者の総医療費 3,429,575,576円 ÷ 年間を通じて透析をしている者の人数 602人



2-2. 人工透析患者の状況

新規患者における国民健康保険の経年加入状況

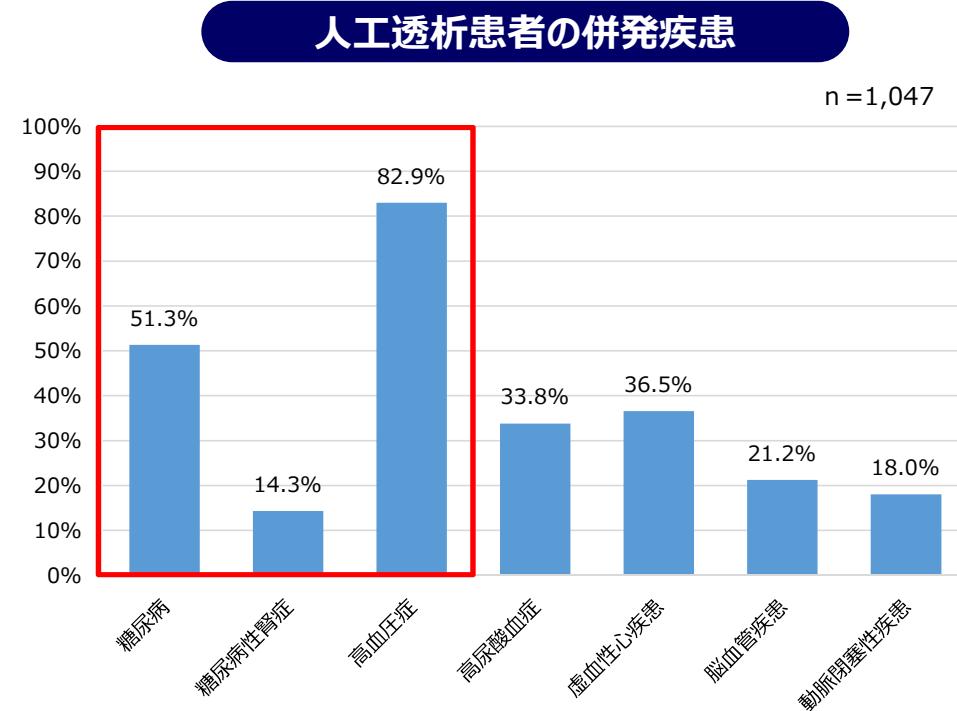
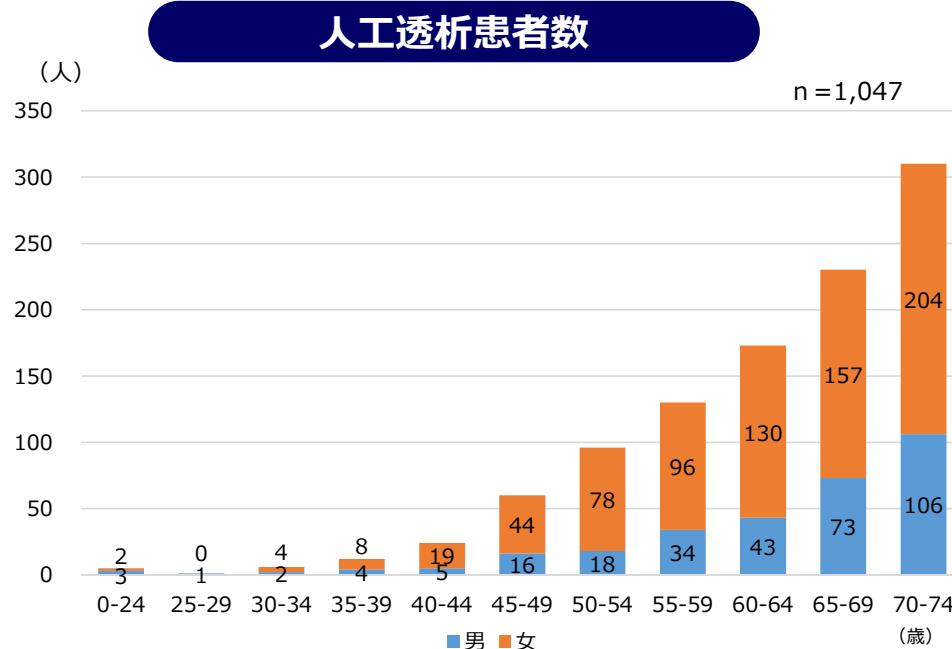
資料：KDB・レセプトデータより



- 令和5年度の新規患者221人のうち、令和4年度以前から国民健康保険に加入している人が142人、令和5年度に国民健康保険に加入した人は79人だった。
- 令和5年度に国民健康保険に加入した79人の内訳は、社会保険等離脱が64人、他自治体からの転入が10人、生保廃止が4人、出生が1人だった。
- 経年的に見ると、前年度以前の国保加入者が令和4年度は63.3%であったが、令和5年度は64.3%に増えている。

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

2-3. 人工透析患者数と併発疾患

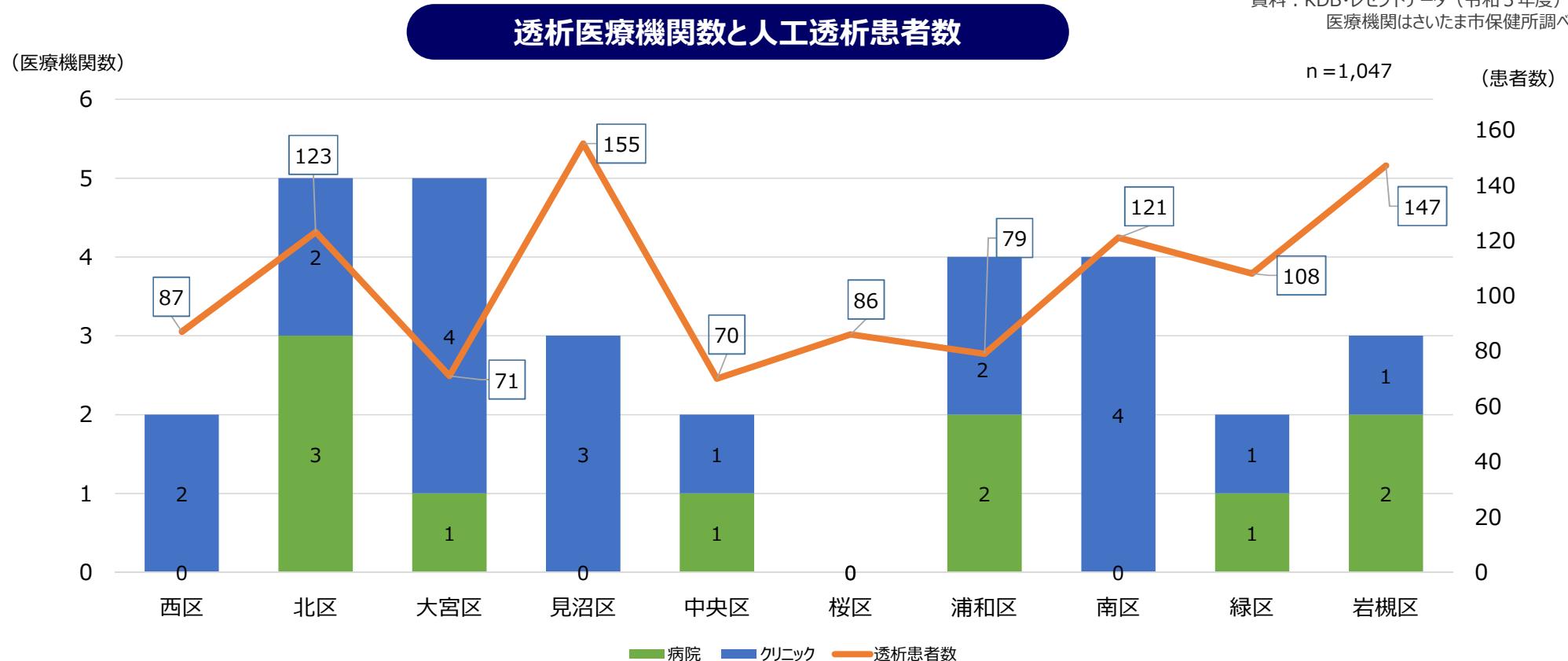


- ▶人工透析患者は年代が上がるにつれ増加しており、70歳代が一番多い。
- ▶人工透析患者の併発疾患では、糖尿病（糖尿病性腎症を含む）、高血圧症の割合が高い。



2-4. 人工透析医療機関数と患者数(行政区)

資料 : KDB・レセプトデータ（令和5年度）
医療機関はさいたま市保健所調べ

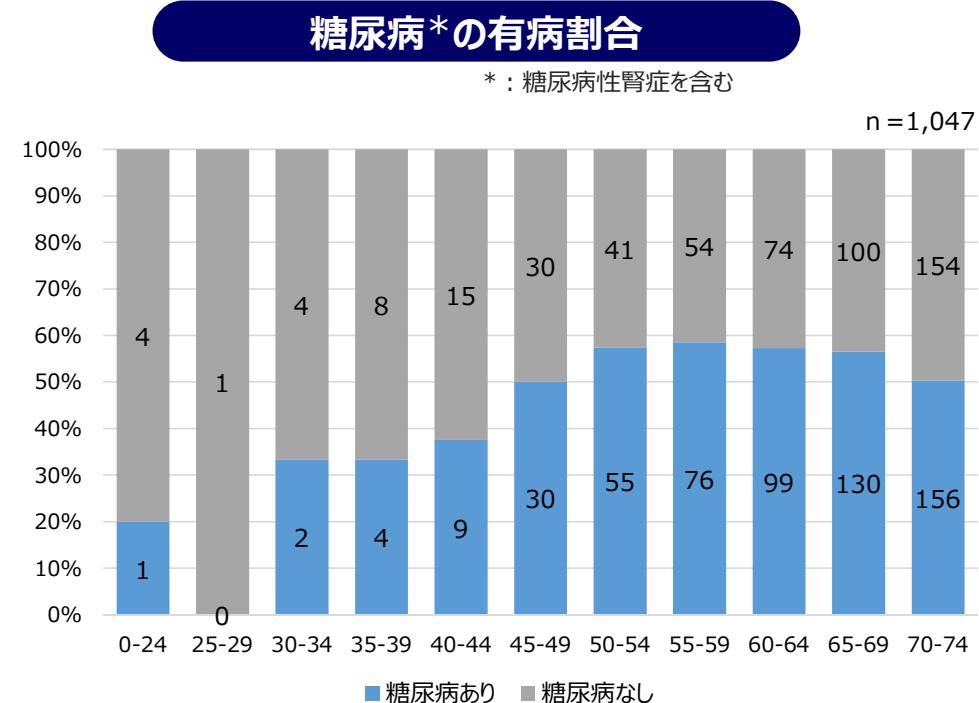
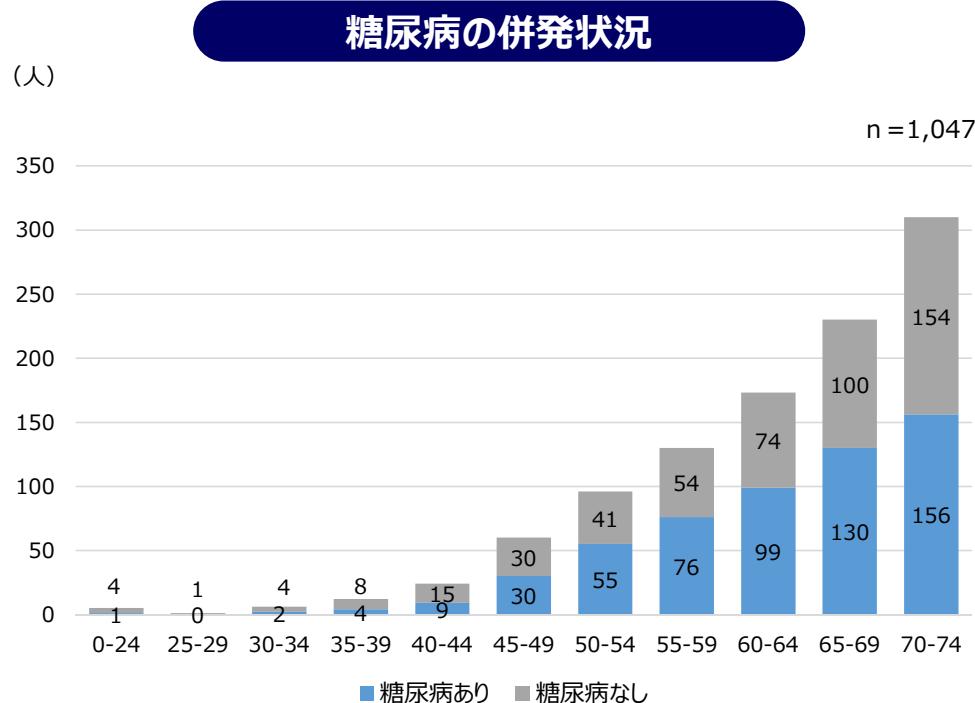


- ▶ 人工透析医療機関は**北区、大宮区**が多く、次いで**浦和区、南区**が多い。**桜区**は医療機関がない。
- ▶ 患者数と医療機関数については、はっきりとした相関がみられない。



2-5. 人工透析患者における糖尿病の併発状況

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

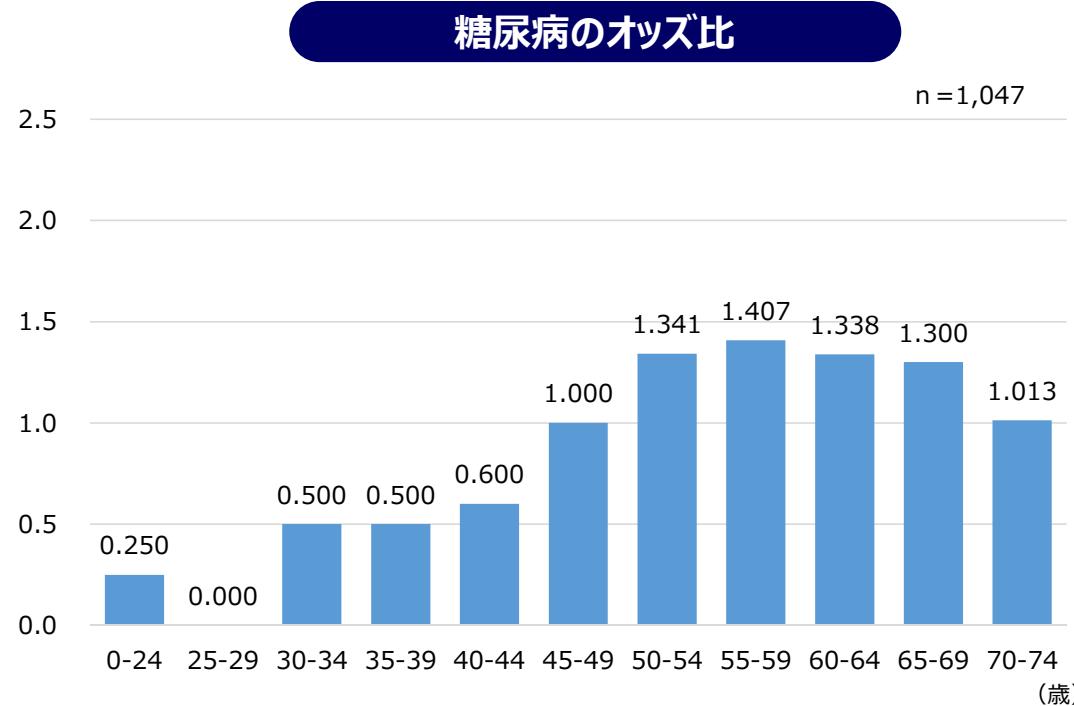


- ▶ 人工透析患者における糖尿病の併発状況は、年代が上がるにつれて増加している。
- ▶ 有病割合は、55歳から59歳が高く、次いで50歳から54歳、60歳から64歳となっている。



2-6. 人工透析患者における糖尿病の併発状況

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より



【オッズ比】

計算式：糖尿病あり患者数 ÷ 糖尿病なし患者数

- ・上記計算式の結果の値が1より大きい：
人工透析患者のうち糖尿病ありの方の割合が高い
- ・上記計算式の結果の値が1
：
人工透析患者の糖尿病あり、糖尿病なしの方の割合に差はない
- ・上記計算式の結果の値が1より小さい：
人工透析患者のうち糖尿病ありの方の割合が低い

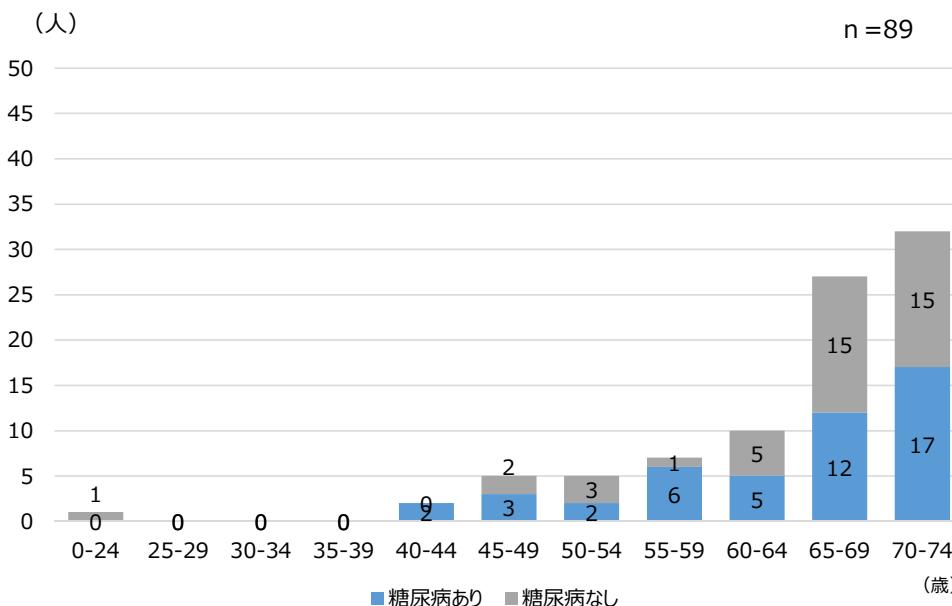
➤人工透析患者における糖尿病ありと糖尿病なしのオッズ比は、55歳から59歳が高く、次いで50歳から54歳、60歳から64歳、65歳から69歳となっている。



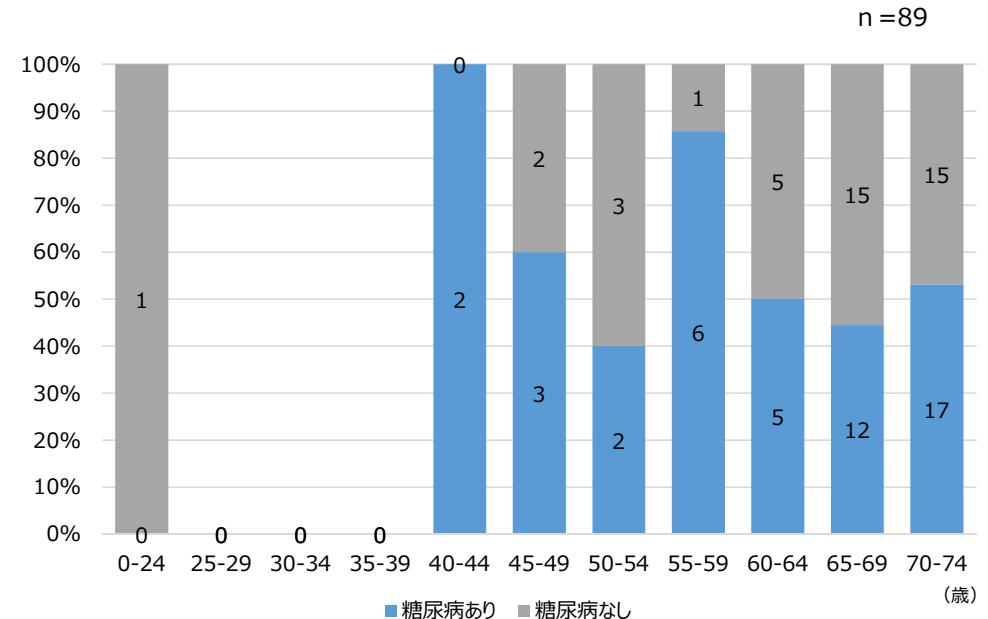
2-7. 令和4年度に人工透析を受け、令和5年度に人工透析を受けなかった患者の理由が死亡であった者における糖尿病の併発状況

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

糖尿病の併発状況



糖尿病の有病割合

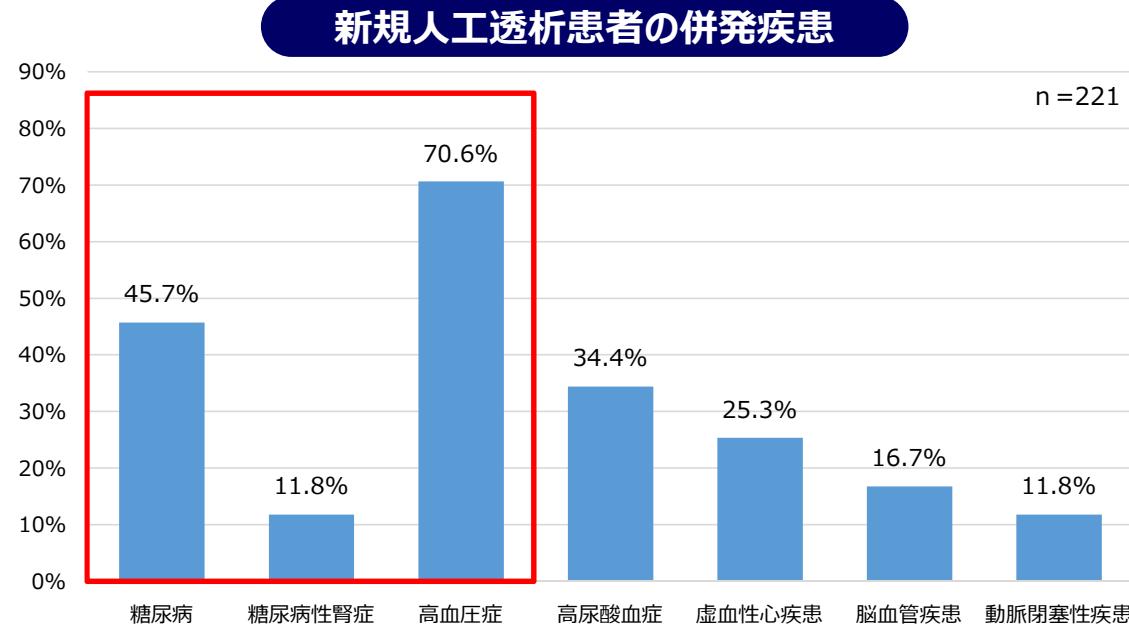
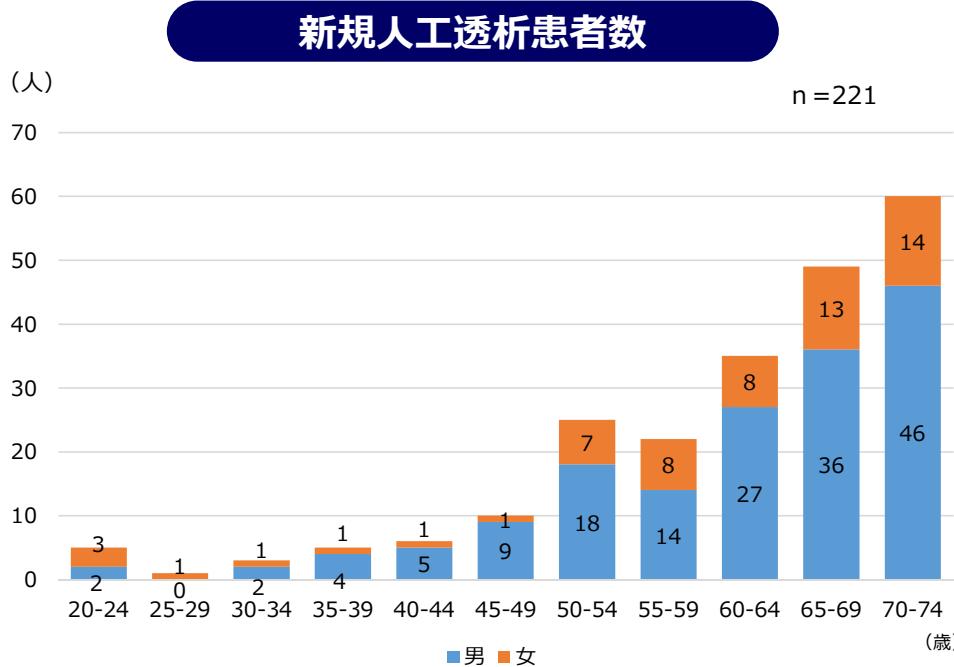


- ▶人工透析患者における糖尿病の併発状況は、70歳から74歳では半数以上を占めている。
- ▶有病割合は、40歳から44歳が高く、次いで55歳から59歳、45歳から49歳となっている。



3-1. 令和5年度新規人工透析患者数と併発疾患

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

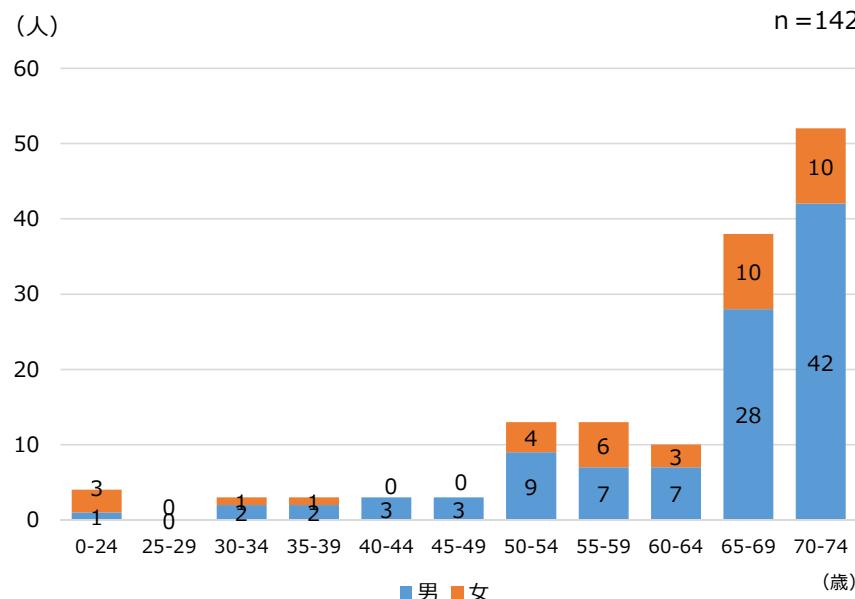


- 新規人工透析患者は年代が上がるにつれ増加しており、50歳代から増加している。
- 新規人工透析患者の併発疾患では糖尿病（糖尿病性腎症を含む）、高血圧症の割合が高い。

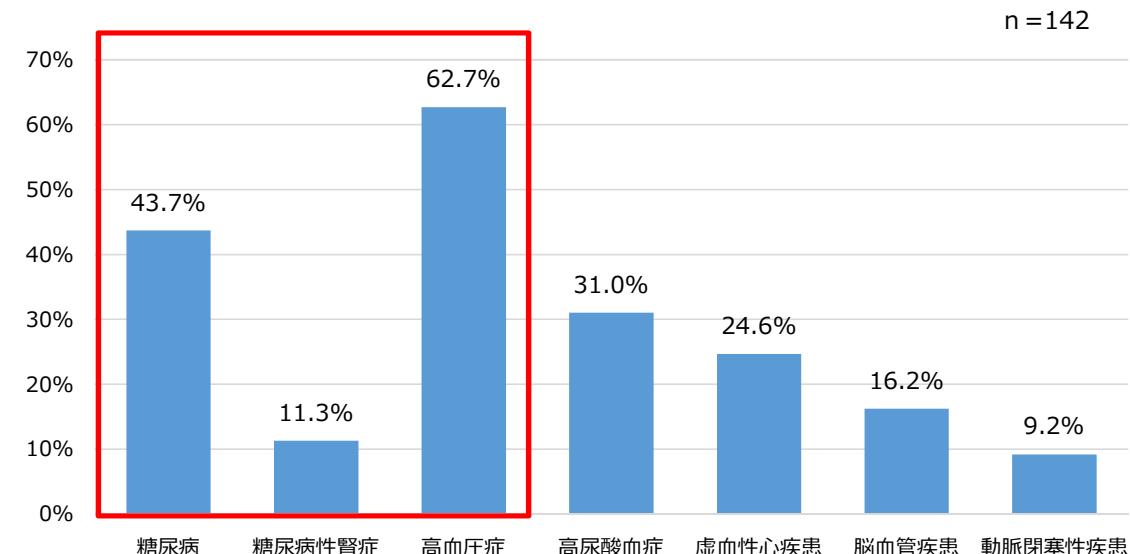
3-2. 令和5年度新規人工透析患者数 (令和4年度以前から国保に加入している人)と併発疾患

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

新規人工透析患者数



新規人工透析患者の併発疾患



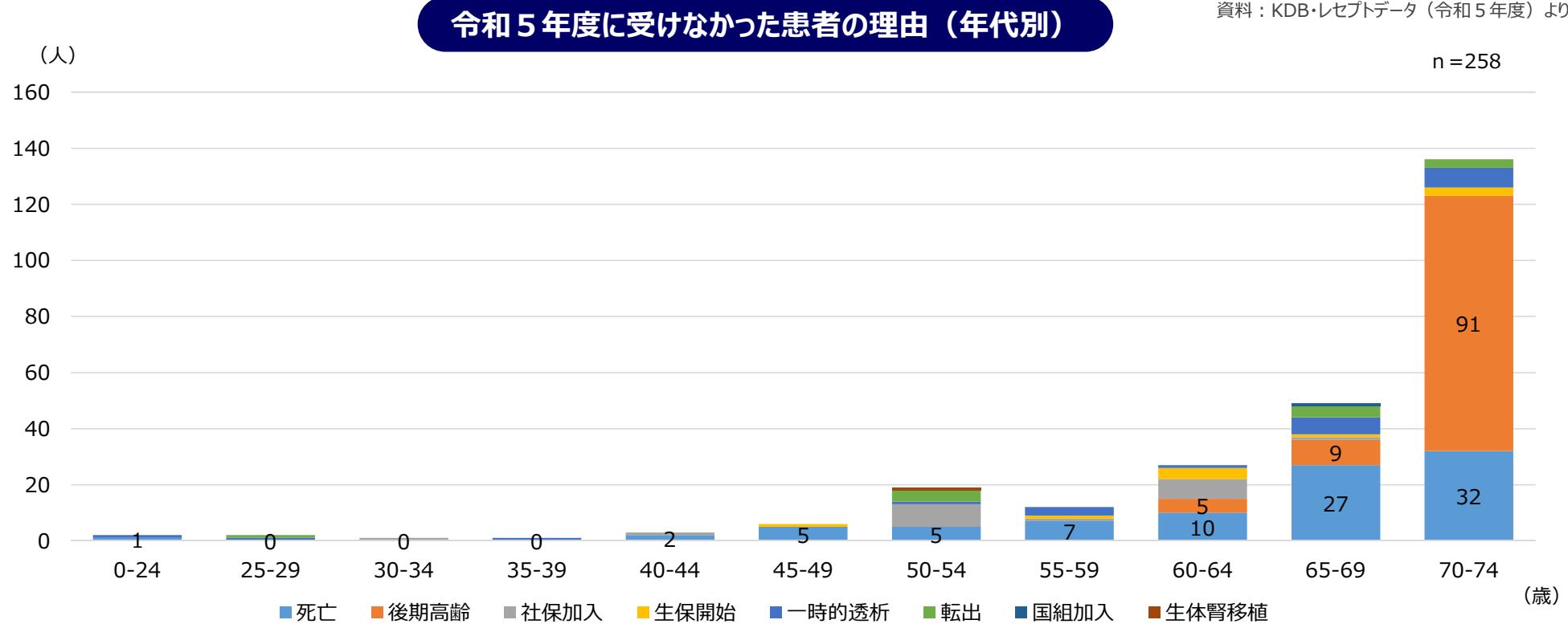
- 新規人工透析患者は50歳から増加し始め、65歳から大幅に増加している。
- 新規人工透析患者の併発疾患では糖尿病（糖尿病性腎症を含む）、高血圧症の割合が高い。

4-1. 令和4年度に人工透析を受け、令和5年度に受けなかつた患者（年齢階級別）



資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

n = 258



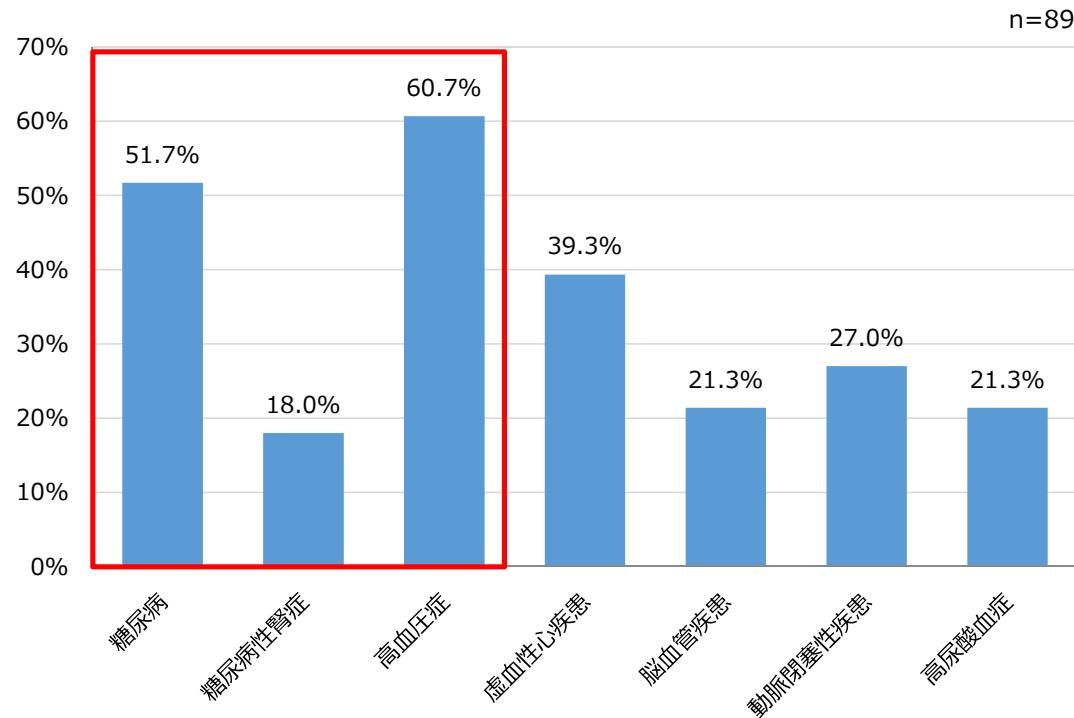
- 令和4年度に人工透析を受け、令和5年度に受けなかつた患者は40歳から増加しており、70歳から74歳が最も多い。理由は後期高齢者医療保険への移行が最も多く、次いで死亡となっている。
- 50歳から69歳までの理由は、死亡が最も多い。



4-2. 令和4年度に人工透析を受け、令和5年度に受けなかった患者の理由が死亡であった者について

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

死亡者の併発疾患

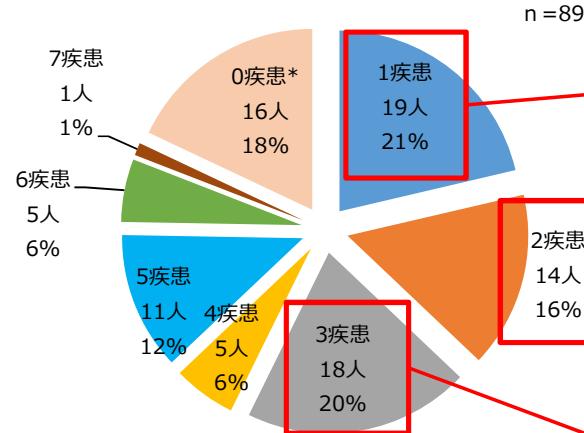


➤死因者の併発疾患は糖尿病（糖尿病性腎症を含む）、
高血圧症の割合が高い。

4-3. 令和4年度に人工透析を受け、令和5年度に受けなかった患者の内、死亡者について

資料：KDB・レセプトデータ（令和5年度）より

死亡者の疾患数



死亡者の併発疾患の組み合わせ

1疾患の内訳（上位3位まで）

順位	併発疾患	人数（人）
1	糖尿病	9
2	高血圧症	5
3	脳血管疾患	2

3疾患の内訳（上位2位まで）

順位	併発疾患	人数（人）
1	糖尿病、高血圧症、虚血性心疾患	4
2	高血圧症、虚血性心疾患、動脈閉塞性疾患	3

* 0疾患は、以下の対象疾患がいずれも該当していない方を表します。

【対象疾患】

糖尿病、高血圧症、高尿酸血症、虚血性心疾患、脳血管疾患、動脈閉塞性疾患、糖尿病性腎症

▶人工透析患者死者の併発疾患では**2疾患以上**が約60%を占めている。

▶死者者は、**糖尿病、高血圧症**を併発している人数が多い。